

さわやか通信



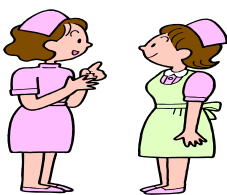
～看護委員会って？・・・～

看護委員会は2006年10月、中村病院長の意向で設置され、看護師確保をその目的としています。すでに初期研修医の獲得と教育を目的とした臨床研修センターのセンター長を拜命していたため、お鉢はまわってこないだろうと思っていたのですが、突然ご指名を受け、お引き受けすることになりました。

発足時は、すでに深刻な看護師不足で、どこの病院でも看護師確保に奔走していました。さらに2006年4月より7対1看護体制に対し加算がつくことになり、某旧帝大附属病院が全国を回って看護師を集めたなど、なりふりかまわない看護師争奪戦が始まったことは皆様も報道などでご存知と思います。研修医と同じで、金の卵たちは都会へと流れる傾向にあるわけです。

委員会メンバーとしては桑原看護部長をはじめとした看護部の幹部を中心に、看護学科の大見教授、久保田准教授、消化器内科の伊熊講師、そして病院部長はじめ医療サービス課の方々、さらに長谷川監事も出席され、**具体的目標は「2009年4月の時点で7対1を達成する」ということで議論を進めてまいりました。**しかしながら委員会発足時には、2007年3月の看護学校卒業生の就職先はすでにみな決まっており、2007年4月の採用者は30名であり、退職者を下回る「歴史的な大敗」に終わったわけでありました。

2007年度は10対1看護すら困難な状況になり、皆様にはICUの病床を減らしたりしてなんとかしのいでいただきました。さて本委員会ではこれまで2008年度採用者を獲得するべくさまざまな努力をしてまいりましたのでご紹介します。まずは本学看護学科の学生



にとって魅力ある就職先となるべく看護学科の先生方と現場の看護部のスタッフでお話し合いいただき、**結果的には2008年4月には過去最高の21名の本学卒業生を獲得**することができました（前年比でも倍増）。昨年11月には2009年度の卒業生をターゲットに、実習前の情報交換会をクイーンズヒルで開き、各病棟の教育スタッフの方々と交流していただきました。**うれしいことに看護学科3年生のほとんどが参加され、また寺尾学長、中村病院長、長谷川監事にもご出席いただき、楽しい会になりました。**来年度の看護学科からの採用者が増えることを期待しているところです。さらに近隣の看護学校の学生さんに大学病院を知っていただくため、看護部総出で2日または3日コースのインターンシップを昨年度は夏と春の2回開催し、計98名の参加がありました。

このような**努力が実を結び、2008年4月の採用者は61名**になりましたが、まだまだ7対1看護体制には届きません。これからの努力で2009年4月には80名以上の採用を目標にしています。新病院の建設も着々と進んでおり、「この新しい病院で働きたい」と思う人も多いと思いますので、決して不可能な数字ではないと思っています。病院のスタッフのみならずには、医療現場で看護学生に積極的にお声掛けいただき、働きやすい職場のアピールをお願いいたします（医学生にもお願いします――臨床研修センターより）。遠州鉄道の電車やバスに看護師募集のポスターがあったことにお気づきになった方もいらっしゃると思います。「ちょっとダサい」というご意見もあり、今年はまた新しいポスターになりました。ご意見等ございましたら、看護部長の方へご連絡ください。（委員長 難波 宏樹）

《看護師募集活動 最前線》

看護師募集活動では、多くの方々にご協力いただいています。今年は、人事課長をはじめ係長の皆様方にも学校訪問にご同行いただいております。すでに、静岡県内はもとより愛知県・三重県・岐阜県の看護師養成学校に訪問し、『是非、浜松医科大学附属病院への就職を！』とお願いしています。逆にどの県も、どの施設も地域の医療体制が危機的状況であることを嘆いていました。**訪問した看護系大学は設置者が県であることが多く、実習病院の診療科が縮小していることから、母性看護学実習や小児科看護学実習先が減少し苦慮され、市立の看護学校では、その状況がさらに悪化していました。**

訪問した市立看護学校に市立病院が隣接され、どこもきれいな病院に建て直されていましたが、医師不足の影響が看護基礎教育に波及することがよく理解できました。愛知県から静岡県の病院に実習のために看護学生が移動することも決して笑い話ではないと、副校長（看護）が我々に訴えるほどでした。

幸いに、既に行われた就職説明会では当院へのブース訪問者は、**これまでにないほど盛況**であることが救いです。とにかく看護部一丸となって頑張ります！（看護部長 桑原弓枝）

産婦人科紹介



当教室は、現在大学に20名、静岡県内の関連病院に65名から成っています。**当教室から開業または転出した医師を含めると約140名が静岡県を中心に活躍しています。**なかでも大学には最も多くの医師が所属し、臨床、研究、教育に従事しています。

大学での臨床は、周産期、婦人科腫瘍、生殖内分泌の三分野に分かれています。周産期分野では金山教授を中心として切迫早産、妊娠高血圧症候群等のハイリスク妊娠分娩管理を行っています。また当科は、羊水塞栓症の診断、研究に関して国内で先進的な役割を担っており、全国から血液検体が集まり、その分析を行っています。婦人科腫瘍分野では主に、婦人科悪性腫瘍の治療、良性腫瘍の内視鏡手術を積極的に行っています。特に、**初期子宮頸癌である上皮内癌に光線力学的療法が行える全国でも数少ない施設です。**生殖内分泌分野は、泌尿器科と連携した男性不妊治療、高度生殖補助医療後の妊娠管理がひとつの施設ですべて行

うことができるのが特徴です。

研究では、臨床からヒントを得て、臨床にフィードバックできるものを題材に、大学スタッフと大学院生が日々実験を行っています。主なテーマは胎盤酸素動態の解明、血栓症や羊水塞栓症の診断、癌の侵潤転移、受精卵着床機序の解明等です。

最近、**全国的に産婦人科医師不足が話題になっていました。静岡県内でも総合病院の産婦人科閉鎖が話題になりました。**当教室は県内で唯一の産婦人科医師供給施設であるため、いかに効率よく産婦人科医師を配置するか、いかに新たな産婦人科医師を育てるかが大きな課題です。**幸い最近数年間は常に3名以上の若い医師が、産婦人科を志して我々の仲間入りしてくれています。**彼らを臨床、研究のできる一人前の産婦人科医師に育てることが大学の最大の役割であり、静岡県の産婦人科医療をよりよいものにすることと考えます。

(産婦人科 竹内欽哉)

我が家の愛犬『きなこ』

我が家には、1歳半になる柴犬がいます。名前は「**きなこ**」、我が家にやってきた日、満場一致で決まった名前です。

柴犬は従来、警戒心が強く、飼い主以外には懐かない性格といわれています。しかしきなこはというと・・・人間大好き、初めて会う人にもしっぽをフリフリしてじゃれつきます。思えば、我が家に来る人というのはみんな犬好きで、子犬の頃からきなこはそんな「優しい」人間たちに囲まれていました。なので、きなこの中には「**人間=優しい、信頼できるもの**」という方程式が成り立っているようです。これはきっと人間の親子関係にもいえることなのかなと思います。

そんなきなこには、ちょっと変わった習性があります。それは外犬なのに変なところで几帳面なことです。天気の良い昼間は芝生の上で寝ているのですが、少し曇りの日や夜は、小屋から毛布を引っ張り出し、自分の寝たい場所に毛布を広げ、口や手で毛布を整

え、その上で寝るのです。川で遊ぶのは大好きだけど濡れた芝生は大嫌い、シャワーは気持ちがいいけれど雨には少したりとも濡れたくない・・・きなこにはきなこなりの「**こだわり**」があるようです。

そして、きなこには柴犬にしては珍しい特技があります。それはキャッチボールです。よく足の長い洋犬がボールやフリスビーをキャッチしている姿は目にしますが、柴犬のキャッチボールは珍しく、近所の都田総合公園ではちょっとした有名犬です。都田総合公園の小高い斜面を20メートルのロングリードをつけて駆け回っている柴犬をみかけたら、それがきなこです。



きなこがやってきて1年半、穴だらけになった庭をみると、きなこが悪魔にみえることもあります。鼻のてっぺんに土をつけて**キョトン**とした顔の

きなこは、やっぱり我が家の天使です。

(臨床研究管理センター 立石麻衣子)

《一枚の絵！》

私は、**西村計雄の油彩画**を一点所有しています。20年近く前、東京の銀座にギャラリーをもつ「一枚の繪」株式会社が浜松で絵画の展示販売を行った時入手したものです。昔から絵に興味はあったものの、当時日本がバブルの時代でなかったら購入したかどうかは分かりません。素人の私が調子に乗った勢いで購入したものです。

この作家、西村計雄は、1934年東京美術学校(現・東京芸術大学)に入学後、藤島武二に師事し文展(現・日展)で特選を受賞しています。42歳で単身渡仏し、ピカソの画商カーンワイラー氏との出会いを契機にパリを中心にヨーロッパ各地で個展を開催し、1971年、渡仏後20年にしてフランス政府より「芸術文化勲章」を受け、73年には「ベルギー国際展グランプリ」、75年には「パリ、クリティック賞」、78年「ユーマン、プログレ勲章」と、やつぎばやに各賞を受けています。魔術的な色使いと日本人の感性を軸にしたハイブリッドな絵と評される作品はフランスで絶賛され、フランス国立近代美術館やパリ市美術館にも買い上げられています。

購入した作品は、淡いピンク色の花がやわらかいタッチとあたたかな色彩で描かれています。白い絵の具が描く鋭いストロークが画面斜めを走っており、南仏の光とこの地方の風(ミストラル)をイメージさせます。もちろん私は南仏に行ったことはないし、これからもその機会はないでしょう。しかし、**絵の中には異国の輝く自然と草花、またそこに吹く爽やかな風が吹き抜がっているのを感じることができます。**

絵画を鑑賞する時、**目的や意味を求めず無心で絵と対面するようにしています。** 暫時、日々の喧騒を離れ心を解放すると無限の世界が広がります。(検査部技師長 泉 正和)